

毎週日曜発行  
2021 7/4

# こども新聞 週刊がほピョンプラス

河北新報社 TEL.022-211-1111(月曜から金曜)



## みんな 子ども だった!?

16

宮城県が舞台のNHK連続テレビ小説「おかえりモネ」は見てるかな？主人公が気象予報士として成長するドラマだよ。実際の予報士さんはどんな人だろう？NHKの宮城県内向けニュース番組「てれまさむね」に出演している篠原正さんに、子ども時代について聞いてきたよ。

◇ 出身は四国の愛媛県新居浜市。瀬戸内海から少し内陸の山側に自宅があり、川や池で釣りばかりしている小学生でした。

きょうのテーマ

みんな思い出

みんな動こう

みんな知りたい

みんな守ろう

みんなトモダチ

# 強風地域出身 自然に関心

祖父はかつて市内にあった銅山で働き、高校教師だった父は山岳部顧問。山の生活が身近で「山が怖い」という感覚はなかったですね。気象予報士を意識したのは大学生の頃ですが、小さい時から気象の影響

を受けました。地元は「やまじ風」という強風が吹く地域。山形県の「清川だし」、岡山県の「広島風」とともに「日本三大局地風」や「日本三大悪風」と呼ばれる風です。祖父や父は風の前兆を

感じ取っていました。あの山の上に雲がかかると「風が来る」などと言っていました。

今から思えば、それも個性。当時の自分に言えるなら「心配しなくても大人になったら、ちゃんと生活できているよ」と伝えたいですね。宮城県出身の妻からは今でも「少し外れているよ」と言われますが…。

雲や風、雨など自然と触れ合い、天気の変化が分かるのが気象予報士。災害の被害を減らすために頑張っています。



篠原 正さん(49歳・気象予報士)

しのはら・ただし 愛媛県出身、東京理科大学卒業。運送会社に勤務(きんむ)後、日本気象協会東北支局(しきょく)の気象予報士に。今は南気象予報士事務所(兵庫県)に所属(しよぞく)している。

れた時、「苦手です」と素直に手を挙げてから、文法など分からないことを何でも聞くようにしました。小説の作者の気持ちを考える授業で、答えた内容がたまたま正解。ほめられたことで「自分は国語ができる」と思えるようになりました。

きょうの紙面

- 2面 ホップ・ステップ・プログラミング
- 3面 3分チャレンジ
- 4・5面 わが校わがまち スクール通信
- 6面 聞いて学べる こども英語
- 7面 投稿特集
- 8面 スチューデントシティ

### 今週の注目ニュース

◇7日(水) 笹かまの日  
宮城県の名物笹かまを、笹竹に短冊をつるす七夕の時期に合わせてPRしようと、県蒲鉾組合連合会と紀文食品が2013年に制定したよ。笹かまの名前も、形がササの葉に似ているからなんだった。